ホスピタウン便り

発行責任者　ホスピタウン事務局
VOL66　平成 25 年 1 月

賀正

「25周年の真誠会 地域医療に貢献を」

小田　貢

本年真誠会は 25 周年記念の年を迎えます。昭和 63 年 9 月 9 日真誠会医院を開業し、平成 7 年ゆうとぴあを建設し、平成 12 年弓浜ホスピタウンを作りました。その後もほぼ毎年と言ってよいほど、施設の建設、事業所の開設を繰り返してきました。毎年真誠会が変化、発展せず、歩みを止めた年は過去 25 年間のうち一年も無かったと言ってよいと思います。

真誠会設立 25 周年の本年は、真誠会にとって何時もの年とは比べ物のならないビッグチェンジの年であると言っても過言ではありません。

昨年認可を得たグループホーム 2 ユニット（和田）は、本年 3 月頃から着工し、9 月頃完成します。同時に現在計画中の真誠会セントラルレジデンス（西福原）は本年 1 月着工しますが、本年 9 月完成で 10 月に開所予定です。また米子ホスピタウン（河崎）も一部増築します。

施設面の拡大ともに、真誠会セントラルクリニックに関しては、昨年末より今までの診療科目に加えて「緩和ケア内科」を標榜しました。昨年以上の数と質の高い緩和ケア（がん末期を中心とするケア）と、認知症かかりつけ医、ならびに認知症サポート医として認知症の早期発見、治療、ケアを充実したいと思います。

そして、昨年から開始している包括ケアサービスの充実、なかでも生活支援隊による高齢者支援を 24 時間定期巡回訪問介護とあわせて米子市全体にサービスを拡充したいと思います。

また、平成 24 年度に始まった厚生労働省の委託事業である「在宅医療連携拠点事業」は本年 3 月で一旦総括されますが、真誠会の連携拠点事業所「コズミックリンク」は引き続き、鳥取県西部医師会、米子市など鳥取県西部の行政機関と連携しながら西部地区の在宅医療、在宅緩和ケア、在宅看取りの推進、支援に向けて尽力したいと思います。今後も地域医療、在宅医療に関して鳥取県西部で中心的な活動を行い、地域に貢献したいと思っております。

聖路加国際病院理事長であり、医療法人真誠会名誉理事長である日野原重明先生は 101 歳になられ、新しい年を迎えるにあたって、更に力強く前進する決意を述べていらっしゃいます。私たちも日野原先生のエネルギーをいただき、少しでも健全な社会の構築のために貢献したいものです。

皆様にとっても本年が発展的で良い年になりますことを心より御祈り申し上げます。

在宅医療連携拠点事業真誠会

コズミックリンク Cosmic Link 活動報告

日本の医療・介護の提供体制は 2025 年に向けて大きく変わろうとしております。そのキーワードとなるのは、一つには在宅医療を主軸とした地域連携です。

真誠会では平成 24 年 5 月、厚生労働省の在宅医療連携拠点事業所の指定を受けました。当法人が指定を受けたのは、在宅医療連携拠点事業所の復興枠でしたので、一般的な在宅医療の活動と、復興枠としての活動と二重の活動を行う必要がありました。

活動の特徴としては、真誠会の強みであるＩＣＴを駆使した活動であり、ホームページ：コズミックリンクを立ち上げました。それを中心に全国に活動状況を発信すると同時に、鳥取県の在宅医療連携拠点事業関係者、県西部６市町村を含む在宅医療連携拠点事業関係者、中国ブロック在宅医療連携拠点事業所など、いろいろな階層、メーリングリストを構築し情報交換、情報共有をしてきました。

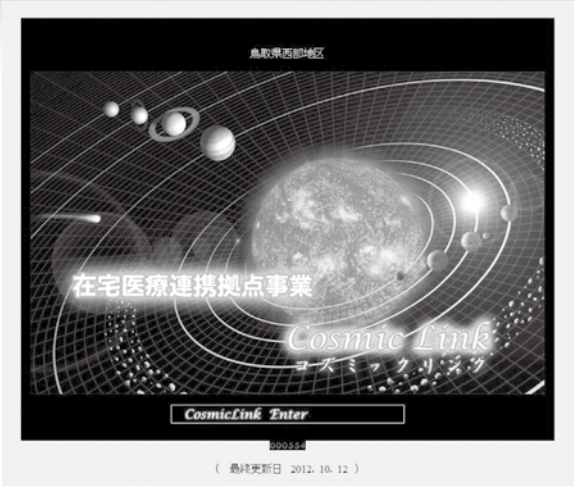
このようなＩＣＴを駆使した連携拠点活動は全国の在宅医療連携拠点事業所の中でも革新的であり、先駆的であったと思います。

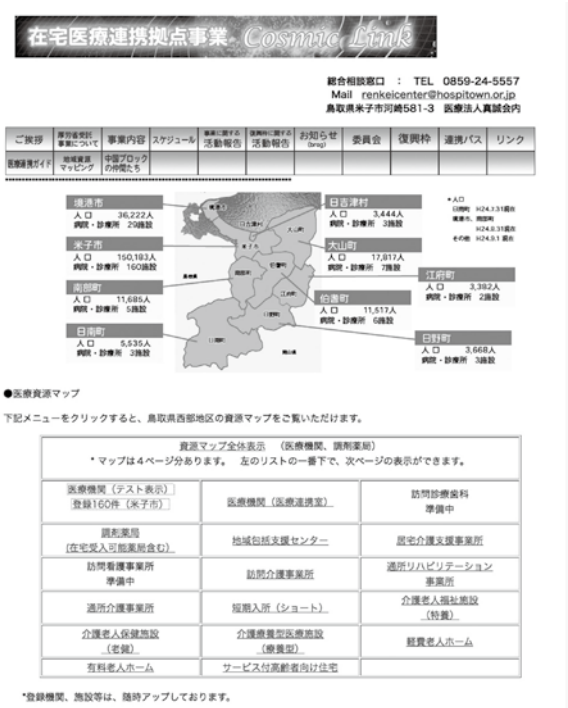
なかでもインターネット上で、県西部地区の医療福祉機関の機能を含むマップは全国のモデルにもなるものでした。

復興枠の活動としては、具体的には弓ヶ浜半島へ津波が押し寄せてきたときの避難の際に、私たち医療福祉関係者はどうすべきなのか、今からどのような準備をしたらよいのかということでした。

幸い、復興枠の活動の時期に、米子市和田町、大篠津、大山町、日吉津村で避難訓練が行なわれるとのことで、これらの地区での避難訓練を視察しました。

和田町の避難訓練には、真誠会からチームを派遣して、避難者の支援、トリアージ、その後の医療福祉機関への搬送、各種連絡ネットワークの機能チェック、避難時には健康手帳を携行していただくことの啓発を行いました。





コズミックリンク　ホームページ
http://renkeikyoten.main.jp/

今後は、県西部地区の医療福祉機関で緊急避難時の受け入れ態勢、具体的に緊急避難者を一週間何人受け入れることが出来るかなど調査し、それをインターネット上にマップで示し、具体的に役に立てるものにして、復興枠の事業を完成させたいと思っています。

私たちの活動は、平成 25 年 1 月 20 日（日）ホテルグランヴィア広島で開催される「中国ブロック在宅医療連携拠点事業活動発表会」で中国5県の9つの事業所が活動発表を行います。優秀な発表に選ばれた一つの事業所は3月に行なわれる日本在宅医療学会で発表することになっています。

この活動は平成 25 年 3 月で一旦終わることになりますが、真誠会としてはたとえ厚生労働省からの予算処置がなくても引き続き医師会、行政と連携し在宅医療推進活動に協力して行きたいと思います。

平成 24 年度薬剤師生涯教育推進事業　研修プログラム

災害医療に貢献する「災害救援薬剤師」養成研修

参加報告

真誠会セントラルクリニック
薬剤師　木村　幸美

今回は、第1回目の「災害救援薬剤師」養成研修ということで、初めて開催された薬剤師のための災害教育プログラムに参加して来ました。

研修目標は、災害医薬品の適正使用と適正管理を行うために、災害医療の特殊性と提供される医薬品の問題点を知り、災害サイクルにおける「災害救援薬剤師」の役割を理解することです。実際に国内外での救援活動に従事されている日本赤十字医療センターの医師・薬剤師の先生方からの実体験に基づいた研修を受けることが出来ました。

また、日本赤十字医療センターの災害倉庫も見学させていただきましたが、緊急出動用の各種装備品が即時に出動できる体制で整えられているのは、さすがだと感服しました。

阪神大震災や、今回の東日本大震災時に薬剤師ボランティアとして参加した研修参加者の意見からも、被災地の現場では薬剤師の果たす役割が非常に大きく、フレキシブルな対応能力や、提案・交渉能力、判断力を平常時から、磨いていく必要があると痛感しました。

今回の研修を活かして、多職種にも薬剤師の役割を理解してもらい、地元薬剤師と多職種が共に具体的に行動・活躍してもらう機会を増やしていきたいと考えています。

派遣用の個人装備品一式

国内型緊急対応ユニット dERU
あらゆる救護資材が装備されています

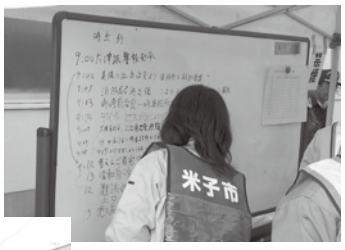
鳥取県防災フェスタ（大篠津津波避難訓練）に参加して

平成 24 年 10 月 28 日（日）大篠津地区において、佐渡北方沖地震（震度6強）による津波発生の想定の元、避難訓練が行われ、真誠会として救護班、パネル展示で参加しました。

救護班はテント内で救急に対応できるよう待機しつつ避難状況を確認しました。

また、在宅医療連携拠点事業の活動としてパネルを展示し、拠点事業の概要や避難訓練の活動報告等、災害に関する住民啓発を行ないました。

真誠会本部は住民の避難状況や行政設置の本部の役割を視察しました。



リアカーに弱者を1～2名乗せて避難される姿、車椅子や杖、老人車を使用しての避難訓練は、大篠津住民の約 1/3 の 520 名が参加され、防災意識の高さを感じました。支援協力団体等行政、自治体リーダー等はベストを着用され、団体の明確化や役割分担の明確化につながると感じました。

今後真誠会では、派遣要請があれば、行政からの集約された情報を元に救援活動が可能であると考えます。また、多職種が連携できるのが真誠会の強みです。災害本部との連携や、マニュアル化が必要と考え、今後の取り組みの課題としています。

在宅医療連携
拠点事業
活動報告

研修会
暮らしを支える専門職のつながり
~多職種連携の拡大について考える~

研修会のお知らせ
暮らしを支える専門職のつながり
~多職種連携の拡大について考える~

在宅医療連携拠点事業事務局　国立長寿医療研究センター　後藤友子様をお招きして、在宅医療連携拠点事業 Cosmic Link の活動報告ならび「これからの在宅医療推進のための連携のあり方 を考える」と題して多職種の皆さまとの研修会を開催しました。

外部推進会議のメンバー、外部一般、内部事務局など 55 名の参加をいただきました。

15 時 30 分～19 時と平日の長い時間でしたが、皆さまが積極的にグループワークに参加してくださり、熱気にあふれる研修会になりました。

研修に参加された皆様

KJ 法を用いたグループワーク

このたびの研修会には、行政の外部推進会議のメンバーの参加もあり、「関係者が意識的に関わって変化するといいですね。」「災害時の派遣や受入は、実際に試みて対応可能な人数を出していただいたのはとてもありがたいです。広がっていくといいですね。」というご意見や、薬剤師さんからは、「いろいろな意見を聞くことがでとても勉強になります。在宅での薬剤師のニーズもあるようです。まだまだ、面識のない方がいらっしゃるので、これからもどんどん参加していきたいと思っています。」という感想をいただきました。

今後も皆さまと一緒にこの事業を地域へ拡げていきたいと思います。

「在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会」に参加して

在宅医療連携拠点事業　Cosmic　Link
小山　雅美

平成 24 年 12 月 1 日、2 日に千葉県松戸市で開催された研修会に、Cosmic Link として 4 名がオブザーバー参加をさせていただきました。

一日半でしたが、ぎっしりと充実した研修内容で、現在、在宅医療拠点事業を展開し、まさに多職種による合同カンファレンスの開催を目前にしていますので、グループワークの進め方、事例の展開方法、それに加えて各事例のミニレクチャーや KJ 法の展開方法など、タイムリーに学ぶことが出来ました。

今後は鳥取県西部地域に、参加した研修をどのように活かして実践していくかが課題だと感じました。それぞれの研修会や日々の実践の中で、『どうつないでいくか』ということをいつも考えながら、この在宅医療連携拠点事業を展開していこうと考えています。

自分たちが学んだことを関係者と共有し、地域へ拡げていきます。

このような研修を全国に広げていきたいです

通所リハビリテーション真誠会
看護師長　佐平 登志美

在宅を推進していく看護師の立場から参加させていただきました。

在宅医療を推進していくための取り組み「IPW」が何故必要かを学びました。

専門性だけではなく補い合う専門職としてのあり方が重要なのだと思っています。

質の高いカンファレンスが実践に結びつき在宅医療が推進されるためには、医師の介入が重要だと思います。

事例検討やカンファレンスを通じて共同作業を医師と行う、顔の見える関係で会議を実施することに意味があるのだと思っています。

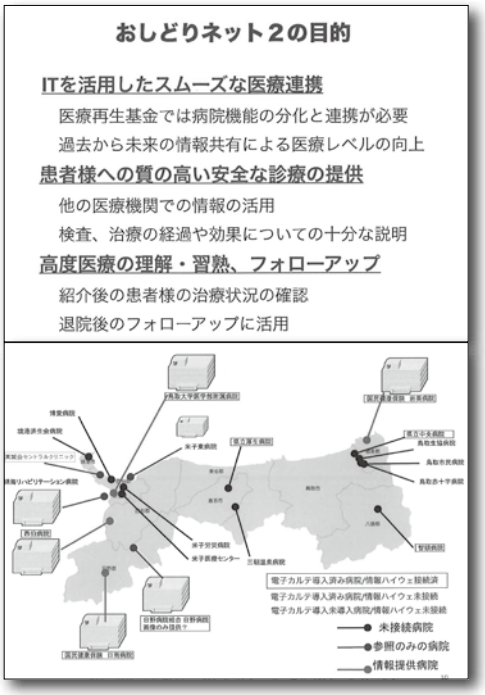
この度の研修において、日頃から感じていたことをどう実践していくのかが理解できました。

看護・介護も質の高いサービスを提供するため、実践的に活かされる研修だったと感じています。

今後も在宅医療推進のため、取り組んでいこうと思いました。

電子カルテ相互参照システム「おしどりネット」に参加

開業医としては初めて！
鳥取大学医学部附属病院とネットワーク接続



鳥取大学医学部附属病院は、鳥取情報ハイウェイを利用し、西伯病院、日南病院、岩美病院などと相互に電子カルテの情報参照ができるシステム（おしどりネット2）を運用しています。

また、鳥取情報ハイウェイ、インターネット回線を利用し、カルテのデータを見るだけ（参照）の機能を利用している病院は、錦海リハビリテーション病院、日野病院、米子東病院となっております。

このたび真誠会セントラルクリニックも開業医の有床診療所としては初めて、おしどりネットに参加できるようになりました。

当院では年間 100 例近くの患者さんが鳥取大学医学部附属病院から紹介がありますが、これからは鳥取大学医学部附属病院から真誠会セントラルクリニックに紹介された患者さんに関して（その患者さんの同意のもとに）、カルテを真誠会の特定のパソコンから見ることが出来るようになります。

受診時の状況や治療歴の情報が活用でき、治療の経過やその効果などについてわかりやすく説明を受けることができます。また、薬の重複投与の防止、種々の検査データが施設間で共有され、安全で質の高い診療をお受けになることができます。

患者さんに関する理解が以前より向上し、より一層その患者さんに対する治療が適切なものになることが期待されます。

鳥取大学医学部附属病院とこのようなネットワークの構築は、殆ど病院間のみで行なわれてきましたが、今回真誠会がおしどりネットに参加したことで、今後は他の開業医に対しても波及的効果が期待されると思います。

真誠会セントラルクリニック
緩和ケアの取り組み

真誠会セントラルクリニックでは緩和ケアに取り組んでいます。昨年もご自宅で最期を迎えられた方がおられましたのでご紹介します。その方は鳥取大学医学部附属病院で、治療をされていましたが、余命半年で、本院緩和ケアを希望され入院されました。入院中は、BGM にお好きな童謡を流したり、趣味の盆栽を持参してもらいお手入れしてもらったり、インターネット（スカイプ）を使用していつでも病室と自宅を繋いでご家族と会話、お孫さんと英語で会話されたりと楽しいひと時を過ごされました。腰痛、全身苦痛などあり、局注、麻薬使用で疼痛コントロールしていましたが、徐々に血圧・意識低下がみられ、ご本人も「家に帰りたい」という言葉が再三聞かれるようになりました。院長、家族、看護師でカンファレンスをした結果、在宅での看取りの方向となりました。当院を退院後は在宅で訪問診療、訪問看護で治療を継続しました。在宅でのご本人は、自宅で孫のにぎやかな声であったり、いつものなじみの部屋であったりと普段通りの環境の中で、最後は家族に見守られながら笑顔で旅立たれました。患者様、ご家族様の気持ちに添うような看取りができたと思います。

今年も、在宅に向けた看取りができるよう取り組んでいきたいと思います。

ご自宅での訪問診療の様子

退院前の合同チームカンファレンスの様子

実践キャリア・アップ戦略「キャリア段位制度」が始まります！

平成２４年秋より、「キャリア段位制度～国家戦略・プロフェッショナル検定～」が岩手県、宮城県、福島県から始まっております。今後は、鳥取県においても開始される予定です。

キャリア段位制度とは、課長、係長、主任といった「肩書き」で評価するのではなく、「キャリア」や「能力」で評価される社会、プロフェッショナルとして誇りをもって生きられる社会を目指し、職業能力そのものを評価する仕組みです。

介護職員の能力を測る「共通のものさし」を作り、各職場の中から一定の要件をクリアした職員がアセッサー（評価者）養成講習を受講した後に、アセッサー（評価者）として、自らの職場の職員の仕事を、職場内で「評価シート」により評価し、第三者機関がレベル認定（レベル1:エントリーレベルから、レベル7:プロレベル）するというものです。

当法人においては、制度開始後直ちに対応できるよう、昨年の夏より、暫定ではありますが各介護職員に「レベル認定」をいたしました。

キャリア段位制度を活用することで、介護職員において介護技術改善の「動機付け」になり得ます。

また、職場のやりがいやスキルアップのモチベーションアップに繋がり、定着率を高めることが期待できます。

そして、施設・事業所の介護技術のレベルアップを図ることで、顧客満足度を高め、サービスの品質向上により一層努めていきたいと考えております。

「介護職員等による喀痰の吸引等の実施」の研修を行っています

介護老人保健施設
ゆうとぴあ
看護師長 小徳 美千子

平成23 年度から始まった、介護職員による痰の吸引等の実施における研修に当法人の介護職員も昨年、今年と 10 名ずつ研修に参加しています。

研修を受けた介護職員は臨床現場で各技術を 20 回以上実施し、一定の基準以上の習熟がなければ合格になりません。2 年間で 13 名の看護師が、現場で実地指導するため研修を受け、介護職員を指導しています。指導者、受講者共に、全項目の研修を終了することにより、自信を持って業務を行っています。

研修に参加した職員からは、「エビデンスに基づいた技術を学ぶことができた」、「危険についてもよく理解でき、事故を未然に防ぐ行動ができそうだ」という意見がありました。研修修了者はまだ少数ですが、実際に現場で吸引の必要な方に、タイムリーに痰の吸引を行なうことができるようになりました。

介護職員による喀痰吸引の開始から一年が経過し、課題も見えてきました。緊急に吸引が必要な場合にどのように運用していくか等、検討を重ねていくことも必要だと思います。

地域包括ケアを支える 定期巡回・随時対応型訪問介護看護に係る研修会

平成２４年11月15日（木）に全国訪問介護協議会会長荒井 信雄（あらい のぶお）先生をお招きし、「地域包括ケア実現に向けたこれからの訪問介護事業拡充・見直しと定期巡回・随時対応サービスへの対応」と題し、真誠会グループ職員を対象にした研修会を行ないました。先生のご講演内容は大変充実しており、１０年前から取り組んでいる「真誠会地域包括ケアシステムモデル」を更に活性化させるアイデアを頂くことができました。

また、この度の研修会は、単に知識の習得だけでなく私たちの意識改革の良き機会となりました。介護のプロフェッショナルとして、その制度の成り立ちから国の将来の動向をしっかり理解したことで、私たちが今提供しているサービスに安住するのではなく、時代や個々のニーズを敏感に察知し、「変化」させていくグループにならなければならないと、受講していたスタッフの意識が一つになったことも、荒井先生の情熱のこもった講義のおかげだと感じました。

荒井先生の情熱ある講義

小田理事長の
講演会活動記録

医療法人真誠会
社会福祉法人真誠会
理事長　小田　貢

高齢者住宅セミナー 2012 ｉｎ大阪

ー高齢者の住まいと介護・医療連携を考えるー

平成 24 年 10 月 30 日（火）には大阪で「高齢者住宅セミナー 2012 ｉｎ大阪」（会場：大阪マーチャンダイズ・マート）が開催され、講師として 1 時間の講演を行いました。

講演の主旨は、サービス付き高齢者向け住宅について、事業が成功するためには入居者が安心できる環境、サービスを提供することについて話をしました。

実際に、真誠会は本年秋には西福原にある米子中央ホスピタウンに、サービス付き高齢者向け住宅「真誠会セントラルレジデンス」を開設します。安心、安全、そして行き届いたサービスが保障された高齢者住宅になると思われます。

私も勉強のために東京、大阪でたくさんのセミナーの講師を受けてきましたが、受講料を必要とする講師は今回が初めてでした。

デジタルヘルス・サミット 2013　ノーベル化学賞 田中耕一氏と共に

平成 24 年 11 月 21 日（水）、東京目黒雅叙園にて日経エレクトロニクス、デジタルヘルス Online 主催の『デジタルヘルス・サミット 2013』があり、私も「ユビキタス地域医療からスマート地域医療に」というタイトルで基調講演を行いました。

学会などの発表会では数々の発表をしてきましたが、基調講演という指導的立場の講演はあまりないことですし、ましてや東京で行なわれる全国大会での基調講演は初めてでした。

ちなみに、そのときの特別講演が 2002 年にノーベル化学賞を受賞された田中耕一氏でした。基調講演は私以外に、医療法人社団 KNI 理事長 北原茂実氏、青森県知事 三村申吾氏、大分県知事 広瀬勝貞氏の合計４人でした。

控え室は田中耕一氏とその他の講師と同じ部屋でしたので、田中氏が発表の準備を終えられたころを見計らって名刺を出し挨拶をしたところ、気軽に名刺を出して挨拶をしてくださいました。ノーベル賞受賞時にテレビなどマスコミ報道で感じた田中さんの素朴で実直な雰囲気は当時とまったく変わらないものでした。

田中さんの発表はノーベル化学賞をもらうきっかけになった研究の経緯について話された後、最近の新しい発明についてお話をされました。その発見もとてもすばらしいものでした。田中氏は、「自分には作業服を着ているのが一番似合っており、今日の発表のように背広姿は本来の自分の姿ではない」というようなことを謙虚に話されました。そして今後は医療の発展、診断学の進展に貢献する研究に専念すると語られました。

今回の東京での講演は、田中氏だけではなく、青森県知事、大分県知事も同じ舞台での基調講演でしたので、発表が終わるまでは緊張の連続でしたが、私の人生の中でも最も格式が高く、またノーベル賞受賞者と同じ壇上で講演ができたという記念すべきものでした。

第3回 地域公開講座　開催！！

平成 24 年 10 月 21 日（月）に第 3 回地域公開講座「終わりよければ全てよし～最期は自宅へ～」が開催されました。約 100 名の地域の皆様の参加を頂き、賑やかな会となりました。

講演会では、いつまでも自宅で生活をするための考え方や体制づくり、体験談などから、「生きる」ことに対して信念を持つことの重要性、意味を感じていただけるような話をしました。講演を聞かれた方からは「死に対してでなく、どう生きていくかをもっと考えなければならない」などのアンケートをいただきました。

セントラルローズガーデンでは年に 3 ～ 4 回地域公開講座を開催していく予定です。地域の皆様のお役に立てる内容を考えていますので、是非御参加ください。

満員の会場で講演をする小田理事長

「第８回　弓浜助け合いネットワーク」シンポジウム開催

～こどもから大人まで　みんなで見守る認知症～

ヨネギーズも一緒に
「よなGO！GO!体操」で
リフレッシュ

平成24年11月18日（日）、「第８回弓浜助け合いネットワーク」の会が弓浜ホスピタウン（2000年ホール）にて開催されました。

全体のテーマは～こどもから大人まで　みんなで見守る認知症～ですが、「防災」「小学校での認知症教育」「認知症予防」を中心に活発に意見交換が行われました。

弓ケ浜地区の小学校をはじめ、多くの学校で子どもたちが認知症について勉強しています。認知症に対する偏見を持たず、優しい心で大人になるきっかけとなると思います。

また、崎津からは緊急避難体制のお話がありました。災害時の避難も高齢者、認知症などの要援護者を救うことが重要になります。

「弓浜助け合いネットワークの会」の中心は認知症ですが、認知症の方を見守る愛情、気配り、普段からのお付き合いが、いざというときの避難行動に生かされると思います。

日ごろから家族や近隣住民とコミュニケーションをとること、日常生活で実践することの大切さを再確認できたシンポジウムとなりました。

今年で８回目を迎え、地域の方、関係事業所の方を中心に約300名の方々の参加がありました。今後も皆様から喜んでいただき、学びのある会を継続していきたいと思います。

毎年好評の
福祉作業所による
販売コーナー

フィナーレは和田公民館
ハーモニカ同好会の伴走で
みんなで「ふるさと」を
合唱しました

【　基　調　講　演　】

弓浜発！！支え支え合う地域

鳥取短期大学　学長　山田 修平 先生

高齢化にはさまざまな問題があります。その一つに、親や配偶者の介護があります。

自分で介護したいという気持ちは大切ですが、身内を介護していると感情的になりがちです。家族に協力してもらい、介護保険制度を上手に使ったり、介護のこつを学ぶと楽になります。

また地域の温かいまなざしや協力があると助かります。助け合う地域をつくるために、ちょっとした取り組みを提案します。

まず、名前を呼び合うあいさつ運動です。お互いに名前を呼んでいると、自然に心が通います。皆が実践すれば地域の雰囲気は変わります。

次に、地域の皆でできる健康づくりです。その一つは会話です。

恥をかくことは、長寿の秘訣（ひけつ）だと聞きました。地域の集まりに出掛けて会話をすれば、恥をかくこともありますが、心が刺激されます。一人ぽつんとしている人がいたら、集まりに誘って交流をしてください。

会話をするとき、自分を認めてくれる人の話は聞くけれど、何を言っても否定する人の話は聞きたくないものです。皆が長所を認め合う地域には、強い絆ができると思います。そのような地域を弓浜地区から広げていきましょう。

【 活 動 発 表 】

崎津地区の自治防災の取り組み

崎津地区社会福祉協議会　会長　矢倉 検治 氏

崎津地区にある10 自治会のうち、11 月 18 日現在で防災組織があるのは2自治会だけです。住民の意見を参考にして、防災組織を作ることにしました。

自治会ごとに防災マップを作ろうとすると、家族構成や病気を他人に知られたくないと思う人もいます。そこで、10 世帯くらいの小さなグループを作ろうと考えています。

これは、防災組織を補完するグループです。介護が必要な人がどこに住んでいるかなどを把握します。高齢者や認知症の方がどのように避難するのか、避難場所やルートなどを決めておくと役立つかと思います。

また、災害によっても対処方法は違います。あらゆる災害を想定して訓練しておきたいです。

小学校の認知症等の取り組み実態

米子市弓浜地域包括支援センター　介護支援専門員　杉村 明範 氏

米子市内の小学校では、絵本を使った認知症学習に取り組んでいます。昨年実施した 12 校中、４校は弓浜地域の小学校でした。

絵本教室では、子どもの素直な感想を引き出します。認知症に対してマイナスのイメージがあっても、それを否定せず、前向きな考え方ができるよう促します。子どもたちは自分の生活を振り返り、お年寄りとの接し方などを話し合います。

今年初めて、中学生とＰＴＡの方への認知症啓発の機会を得ました。参加者より「介助してくれる人の優しさが分かったので、自分も助けになりたい」などの意見がありました。

子どもから大人まで、高齢者を支える幅広い世代へ啓発を続けていきます。

小学校の認知症等の理解の現状

弓ヶ浜小学校　教諭　谷田 初美 氏

弓ケ浜小学校の３年生は「地域のお年寄りの方と仲良くなろう」というテーマで、人を大切にする学習に取り組んでいます。

お年寄りとグラウンド・ゴルフをしたり、弓浜地域包括支援センターの方から話を聞いたりしました。

また、重たいチョッキを着たり、耳に綿をつめたりして、お年寄りの「動きにくさ」や「聞こえにくさ」も体験しました。子どもたちは「交流するときは、耳元でゆっくり話したい。」などの感想をもちました。

こうした体験をしたことでその後の交流では思いやりをもって行動することができました。

子どもたちが誰にたいしても優しく接することができる人になってほしいと願っています。

米子市認知症予防事業の経過

通所介護真誠会セントラルローズガーデン　管理者　山根 賢一 氏

わたしたちは今年度、米子市が企画した通所型認知症予防プログラムに取り組みました。内容は、有酸素運動と趣味活動です。

有酸素運動は、アルツハイマー型認知症の原因となるアミロイドβタンパクが脳へ沈着するのを抑制します。絵画やグラウンド・ゴルフなどの趣味活動は、脳機能を強化すると考えられています。

週1回実施し、4カ月で認知機能が向上しました。参加者の表情が明るくなったり、家族との会話が増えたりといった変化もありました。

これらの結果を受けて、施設では趣味の時間を取り入れ、有酸素運動を増やしました。今後も認知症の早期発見と進行抑止に取り組みたいと思います。

ホスピタウン交流会 in 熊本に参加して

平成 24 年 11 月 10 日（日）、第 16 回ホスピタウン交流会 in 熊本が開催されました。

ホスピタウン交流会は、真誠会、にしくまもと病院、真星病院がお互いに兄弟姉妹の病院として毎年各病院を持ちまわりで開いている会です。

今年は熊本市南区富合町にある「にしくまもと病院」が当番病院でした。今回の交流会の目玉は新築された病院見学でした。

熊本の皆さんと一緒に

「2025 年に勝ち残るための体制の構築」について講演をおこないました

にしくまもと病院に到着してからまず旧病棟で各病院の過去一年間の活動発表が行なわれました。

その後、新病棟の見学をしました。約一年の建設期間を経て、昨年 6 月に 6 階建ての新病棟が完成されました。病棟部分は、回復期リハビリテーション病棟 36 床、一般病棟が 80 床、療養病棟 30 床の大きな病院です。手術室も 2 室ありＣＴ、ＭＲなども最新のものが備わっていました。リハビリ室も広く、外来の診察室は 10 室ありました。近代的な新病棟は、広域スペースも十分にあり、カラーリングもとても明るくセンスがあり、患者さんに優しい造りでした。

新病棟には、林先生の「熊本ホスピタウン構想」（病院の近くにクリニックが集まり、周辺の保育園や福祉施設と協力して、子どもからお年寄りまで、健康で住みやすい町にしたい）の思いが強く感じられました。

当時、にしくまもと病院を再建するために院長をかってでた林先生が、再建のヒントを得るために真誠会に来院されたのが平成 5 年のことです。それから 20 年、紆余曲折、七難八苦を乗り越えて、にしくまもと病院をこれだけ立派な病院にされた林先生の地道な努力に感服するのみでした。

昨年 6 月に完成したにしくまもと病院の新病棟

本年のホスピタウン交流会は、真誠会が担当病院ですので、それまでに真誠会をもっと立派にしておかなければならないと思います。

管理者研修「戦略マネジメントを学び、管理力を養おう」への期待

真誠会は、医療・社会福祉両法人で現在 450 余人の職員が在職し、医療・介護の分野で３０事業所が、広く多様な事業展開しています。

そこで求められるのは、各事業所の「要」である事業所長の管理力です。事業所長は経験や人柄等で認められ推薦され、その任に就いています。しかし、事業所を束ねていくにはそれだけでは苦しく、大きな責務の中で情熱を持ちながらも役割発揮が充分果たせてない現状があります。

本研修で、今まで系統的に培われてこなかった管理者育成に本腰を入れて取り組んでいます。

研修計画は、目的を「医療・介護を取り巻く環境が激しく変化する中で、自らの組織を環境の変化に適応させるために戦略マネジメントの基礎的な実践力を身につける」とし、１６名の事業所長を対象に、国立保健科学院医療・福祉サービス研究部　部長　熊川寿郎氏を講師に迎え「戦略マネジメントシステムとしての BSC（バランス スコア カード）」をコース研修（9月～3月）で学んでいます。

管理者が一番苦手とする論理的思考による現状分析、問題抽出と解決策、戦略マネジメントツールであるＢＳＣの理解を演習やグループディスカッション、プレゼンテーションの実践的研修手法で、かつてあまり使ったことのない思考や論理を司る左脳を使って皆が、産みの苦しみを体験しています。

しかし、この論理的思考やマネジメント力が管理者としての自信に繋がり、「やらされる管理」から「目標を目指した、やりたい管理」へ、そして自らの力で事業所が動く、管理者としての真の喜び、醍醐味に繋がると確信しています。

実践力をつけるため研修に望む管理者たち

米子ホスピタウン　文化展

米子ホスピタウン（河崎）のゆうとぴあ広場で「第 18 回真誠会文化展」が開催されました。

今年も入所者様、通所の利用者様、健康クラブの会員様や職員などの作品が多数展示され、たくさんの方々が作品を鑑賞されました。

今年の文化展はオープニングセレモニーに参加してくれた河崎小学校の皆さんに、ハート形の台紙に書かれた願いごとを『願いごとの木』に貼ってもらい、『願いごとツリー』を完成させました。子どもたちの願いごとが叶うとよいですね。

文化展は 11 月 1 日から 7 日までの一週間開催されました。

オープニングセレモニーに参加してくれた河崎小学校3年生の皆さん

子どもたちが完成させた『願いごとツリー』

利用者様と子どもたちで手をつなぎ、作品鑑賞です

展示されている作品は力作ばかりです

弓浜ホスピタウンで　ふれあい文化祭

米子市大崎の弓浜ホスピタウンで、「第11回ふれあい文化祭」が11月29日から12月5日まで開催され、作品展示などを通して利用者様と地域の皆様のふれあいを深めました。

会場の2000年ホールには、手芸品や書、絵画、写真など利用者様や地域の公民館サークル、崎津小学校、崎津保育園の皆さんの作品約400点が展示されました。

初日はオープニングセレモニーが行われ、崎津小学校の4年生44人が元気に合唱と演奏を披露しました。セレモニーの後、児童たちは利用者様の車いすを押すなどして、一緒に展示作品を観賞して交流。児童は「元気に過ごして下さい」と利用者様に声を掛けていました。

12月1日には、バザーと喫茶コーナーが設けられ、多くの利用者様や家族の皆様などでにぎわいました。

一緒に作品を観賞する利用者様と崎津小学校の子どもたち

介護の日イベント

平成 24 年 11 月 11 日（日）介護の日に、米子市文化ホールにて「第 3 回真誠会介護の日イベント」を開催しました。このイベントは地域社会における支え合いや交流を促進する観点から、介護や予防についての理解と知識を深めて頂くことを目的としています。

イベントでは、真誠会の様々な資源を活用し「脳活性トレーニング」「予防体操」「介護教室」「口腔・栄養・健康相談」など 11 のブースを設け、145 名の方に来場して頂きました。

イベントに参加して頂いた方々からは「初心者にもわかりやすい内容だった」「自分の健康について普段考える機会がなかったのでよかった」「就職先が福祉の仕事なので参考になった」と、たくさんの貴重なご意見、ご感想を頂戴しました。

今後も、活動の場を地域へと展開し、地域社会における相互支援への啓発活動として取り組んでいきたと思います。

来場された方の健康チェックです

簡単にできる予防体操にチャレンジです

新年のご挨拶 ～本年も

辻田耳鼻咽喉科　院長
辻田 哲朗

24年目になって

平成 25 年になりました。ホスピタウンも平成と共に年月を重ねて来て今年で 25 周年になります。辻田耳鼻科は1年遅れでスタートしましたので 24 周年になります。この間登録した患者さんの人数が 62,000 名になりました。こんな小さな医院によくぞこれだけの患者さんに来て頂いたなと感慨に耽りたくなります。24 年と言えば昔小学生だった人がいつの間にか大人になり今度はその子どもを連れてやって来てくれるようになりました。そんな時は改めて時の流れを感じてしまいます。24 年の間に病気そのものも変わってきており、特に最近はアレルギー疾患が多くなり、特に杉花粉症は年々増えてきています。これも環境や食生活の変化でしょうか。また、子どもの中耳炎は相変わらず多いのですが、最近は薬が効きにくくなっており、耳鼻科の中ではいつも問題になっています。それと５年ほど前から禁煙外来も始めました。これも時代の流れです。

やはりタバコは全ての病気の元になります。このために機会がある度にボクが受け持っている小中学校に出かけてタバコの害について話しています。病気は、予防に勝る治療はありません。

個人的なことですが、ガイナーレの塚野社長との縁でずっと応援しています。去年はＪ２から落ちるんじゃないかと最後までハラハラしました。ＹＡＪＩＮスタジアムも出来たことだし、今年も性根を入れて応援します。それと 60 近くになってもまだ野球やっています。出来るだけ長くやりたいので、毎日のトレーニングは欠かしていません。それともう一つ今年は職員とイタリアに行こうと思い今イタリア語の特訓中です。とまあだらだら書きましたが今年もガンバリマス！

いえはら歯科　院長
家原　猛

2013 年頭の辞

謹んで年の初めのご挨拶を申し上げます。

この 12 月の総選挙の結果、民主党政権は 4 年を待たずして政権を自民党に譲ることとなりました。第 3 極、離合集散、生き残りを賭けた新党結成などドタバタ劇の中、終始何か冷めた選挙でした。東日本大震災後の復興問題、円高･デフレ対策、景気･雇用対策などの経済問題、医療･年金･子育て･介護などの社会保障問題、北方･尖閣･竹島などの領有権をめぐる問題、外交問題、原発と再生可能エネルギーの問題、財政改革など大きな問題がまさに山積みです。2 度目の内閣総理大臣になられた安倍晋三自民党総裁、新政権与党には多くの議席を背景に力の政治をするのではなく、生活者として生活実感を共有できる、内政にしっかり目を向けた政治を期待してやみません。

今年一年が皆様にとって倖多い年となりますよう、また皆様方のご健勝を心から祈念し、変わらぬご厚誼ご愛顧を賜りますことをお願いしつつ、新年のご挨拶といたします。

よろしくお願い致します～

介護老人保健施設
弓浜ゆうとぴあ　施設長
五明田 孝

年末、入所者の終末期の対応について考えさせられる複数のケースを経験しました。

前以て最期は自然の経過に任せて看取りで対応すると話し合っていたにも関わらず、臨終に臨み急遽、医療を望まれ病院に搬送することになりました。家族の感情と施設側の思いとにずれが往々にしてあることが分かり、苦慮しました。

いずれにしても本人にとって最善で、しかも家族にとっても納得できるような対応が出来なければ不満やトラブルのもとになり、十分その思いを配慮すべき重要なテーマの一つと考えさせられました。

さて今年は巳年で、草木の成長が極限に達し次の生命が作られ始め、植物の種子が出芽し始める時と言われています。色々な希望の種を蒔き、多くの実を結ばせる実り豊かな素晴らしい年になるよう願っています。

琵琶湖の鮎

介護老人保健施設
ゆうとぴあ　施設長
中下 英之助

私は大学生の６年間と卒業後勤務医９年間を北陸地方の中心都市であり加賀百万石の城下町である金沢で生活しました。泌尿器科教室では新入局教室員の心得として先輩の先生から注意事項の説明があり、其のひとつとして金沢人は琵琶湖の鮎と揶揄される戒めの言葉がありました。琵琶湖の鮎は競争相手がない環境に在るために、ある程度以上は大きく育たないので、全国各地の河川に放流して大きく発育します。

北陸の生活では１年間の仕事は実質９ヶ月で行い、冬場場の３ヶ月は積雪によるリスクから大きなイベントは控えて、除雪や交通渋滞など雪国の生活に専念します。始めのうちは頑張りますが、雪に閉じ込められた冬場の生活が続くと気分も内向きになり、古い城下町の伝統と安定志向の環境に同化して停滞をきたします。先輩から受け継がれたこの悪弊に陥らないように積極的に外部に目を向けよという言い伝えも、むなしく今も耳元に残ります。来年には北陸新幹線が開業して金沢と東京が２時間３０分になりますが風向きはいかがなりますでしょうか。

日本はバブル崩壊後の長い停滞が続いております。若者は安定志向からか外国留学も少なくて国中が内向きになり、戦後の高度成長における成功体験の余韻に浸って居る間に、アジアの近隣諸国に追いつかれました。琵琶湖の鮎を通り越して、アジア大陸の東方（極東）の島国は井の中の蛙大海の状態に舞い戻ることを危惧します。『井の中の蛙大海を知らず』（荘子）と『琵琶湖の鮎』における違いは『五十歩百歩』（孟子）でしょうかね。

今年もよろしくお願いします。

介護老人福祉施設
ピースポート　施設長
矢倉 敏久

新年あけましておめでとうございます。 昨年もいろんな事件に明け暮れた一年でした。今年は、韓国・中国との間に、竹島・尖閣諸島の領有権の問題を抱えて、対立した状態でのスタートです。特に、国内の事情からか中国は異常なほど強硬です。

米子市は、中国の保定市、韓国の束草市と姉妹縁組をしています。私が市役所の企画部にいたとき、両市への訪問団に参加して行ってきましたが、「市」といっても国によって事情がずいぶん違っていて驚きました。

韓国の束草市は、日本海に面し、北朝鮮に近いあたりにあります。米子市より少し小さく、面積は 105.25 平方キロ、人口は８万数千人です。市議会議員は確か８人程度で、議員報酬はなく、名誉職だそうです。だから、会社の社長さんなど、ある程度お金持ちでなければ議員になれません。

中国の保定市は、北京市の隣にあり、面積 22,000 平方キロ、人口 1,060 万人と、米子市の姉妹とは思えない巨大さです。市長さんは一応人民によって選出されますが、市長さんより上位に共産党の書記が置かれていて、政策立案の権限は書記が握っているそうです。この辺はいかにも共産主義の国ですね。どちらの市でもずいぶん親切にしていただき、歓待していただきました。関係が早く正常化することを願っております。

新年のご挨拶 ～本年も

看護・介護統括部長
三ツ木 育子

年頭の挨拶 ～実りある地域包括ケアシステムの実践を～

真誠会では、昨年の念頭に、理事長から「在宅革命」という新しい概念の企業目標が示されました。医療を地域にシフトする国の政策に先手を打っての職員に対して意識改革をねらったものでした。

年頭指針のとおり、昨年は在宅医療・介護を真誠会でどう展開するか、多岐にわたるチャレンジに終始した一年でした。

主だった新事業を挙げてみますと、

☆「24 時間定期巡回・随時対応看護・介護訪問」のモデル事業から、施設の地域展開（施設で行っている看護・介護を地域で展開する）を目指して本事業へと稼働しました。

☆平成 24 年度介護報酬改定が求める、老人保健施設おける在宅復帰の推進。（目指すは、復帰率 30% 以上、平均在所日数から算出されるベッド回転率５％以上）

☆厚生労働省から委託された、医療と介護連携推進の為の「在宅医療連携拠点事業」展開

☆在宅高齢者の為の御用聞き「生活支援隊」のサービス展開　等などです。

しかしこれらの事業はこれまで真誠会理念として培ってきた「愛と謙虚さを基に、心に響く医療福祉を提供し、安心して暮らせる街づくりに貢献します（一部割愛）」になんら違うものでは無く、ますます社会に公約した「ミッション」として責務を果たしていかなければなりません。

新年度は全職員が一丸となって、前年度から構築している新しい事業の質的向上、より良いサービス提供に努めていくことで、高齢の方々が、住みなれた環境で安心して暮らせる体制、「地域包括ケアシステム」を、真誠会ならではの実りある実践にしていきます。

介護老人保健施設
ゆうとぴあ
看護師長 小徳 美千子

皆様にはお健やかに幸多き新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年 4 月には介護保険の大きな改定があり、介護保険施設の経営には厳しい内容でした。「ゆうとぴあ」は法人全体の取り組みである、稼働率の維持、透析利用者の受け入れなどの大きな変化もなく、新しい年を迎えることができました。

今年の介護老人保健施設「ゆうとぴあ」は地域包括ケアシステムの導入により、老健施設の役割でもあります、在宅支援、地域との関わりを重要視した地域での介護に力を入れて行きたいと考えています。

ご利用者様、ご家族様の思いを尊重した、安心できる在宅生活、施設生活を過ごしていただけるようなチーム作りをして、地域の皆様に選んでいただける施設を目指して職員一同力を合わせていく所存でございます。

ケアハウスリバーサイド
看護師長　矢倉 ツヤ子

リバーサイドの新年は、元日のお昼に心づくしのおせち料理、お神酒を前に、「互礼会」で始まります。そして地元の神社へお参り。二日は吉書始めを行います。

三日は新春かるた会、みかんを目当てに歓声があがります。

七日は七草粥で無病息災を祈ります。

リバーサイドでは季節の行事を大切にしています。そこには温故知新の入居されている人生の心が宿っていると考えるからです。

住む地域によって仕方があり、地域自慢と発見が楽しい時間となっています。

また、協力してひとつの行事を成し遂げた達成感は大きな喜びを与えてくれます。

今年もいろいろな仕掛けをしたいと思っていますので、お楽しみにお待ちください。

通所リハビリテーション
真誠会
看護師長　佐平 登志美

「2025 年」超高齢者社会・認知症高齢者の増加など国は地域で安心して暮らせる街づくりに取り組んでいます。通所リハビリテーション真誠会は、地域で安心して暮らすための街の資源になる事を目指し様々なサービスを提供しています。

利用される方だけではなくそのご家族にとって頼りになる存在として、通所リハビリテーションの機能を発揮し、多くの方に利用していただきたいと思います。各専門職がチームで利用者の方々の暮らしを支援できるよう努めます。

介護老人福祉施設 ピースポート
看護師長　安田 浩子

2012 年も、いろいろなことがありましたが、ピースポートでは、秋口よりコンシェルジュスペースを設け、相談員・介護支援専門員（ケアマネージャー）が駐在し、日々、ご家族様や相談にお見えになる皆様方へのお力になれるよう努めております。そして多くの皆様にご利用いただき、施設へ足を運んでいただけることを職員一同喜んでおります。私達の仕事は、すべての対象が「人」であります。人を大切に、とことん「人」を思いやれるように努力していきます。「人と人」との関わりの中、利用者様やそのご家族、地域の中で心のこもった『感動』や『感謝』が繰り広げられるようにしていきたいです。私自身も、人とじっくり関わることのできるこの仕事を大切にし、皆様からもご意見をいただきながら、頑張って参りますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。2013 年も私達は前を向いて歩んでいき、福を呼び込むよう努力していきます。

セントラルクリニック
副看護師長　市川 登志子

昨年度は在宅医療についての事業展開の年であったと思います。私も、研修に参加させてもらい本年度も引き続き在宅医療に眼を向けて、多職種連携を強化していかなければならないと思います。在宅からいつでも安心して入院できる環境作りとしてベッドの調整の取り組みをしていきます。真誠会セントラルクリニックとして、個別性のある看護を目指して、患者様、家族様から信頼されるよう努力してまいります。

よろしくお願い致します～

真誠会セントラルクリニック
薬剤科
科長 木村 幸美

薬剤科では、患者様に安心・安全な薬による治療を受けていただくために、薬を作る調剤業務以外にも様々な取り組みを行っております。

その中で、今後ますます重要になってくると考えていることは、地域のかかりつけ調剤薬局、訪問看護師、ヘルパー、ケアマネージャーなど、在宅看護・介護をサポートする多職種との連携です。

患者様が病院から在宅に帰っても、正しく安全に服薬して治療を継続し、患者様に安心感を持っていただけるための取り組みを多職種と連携しながら展開していけたらと考えています。薬に関する困りごと、相談等など気軽に声を掛けて下さい。

医療法人真誠会
総務課長 角　琢治

社会福祉法人真誠会
総務課長 前田 浩寿

医療、介護、予防、住まい、生活支援の５つの要素を具現化し、高齢になっても住み慣れた地域で生活できるよう「真誠会地域包括ケアシステムモデル」の構築に取り組んでいます。昨年は、新たに定期巡回型訪問介護看護サービスを開設しました。本年は、更に新しい取り組みを行い、真誠会グループが前に進み努力している姿をお見せしたいと思います。地域の皆様に医療・福祉の充実した米子に住んで良かったと思って頂けるよう、当グループの総力を挙げて、皆様の在宅生活を支援したいと常に考えております。

訪問リハビリテーションゆうとぴあ
課長 大西 博巳

平成 25 年地域包括ケアチームの一員として、多職種連携においてリハビリテーション専門職として役割発揮を行い、地域住民の皆様へ必要な時に必要なサービスが提供できるように取り組んで参ります。その為にもリハビリ専門職として専門性を発揮する。特に OT による認知症予防・認知症リハビリ、ST による誤嚥性肺炎予防、ケアマネージャーへの協力（リハビリの視点での評価実施）を３つの柱として頑張ります。

訪問介護弓浜真誠会
管理者 赤井 康人

当事業所では昨年度より『定期巡回・随時対応型訪問介護看護』を実施しております。

このサービスは、1 日に複数回の自宅訪問を基本として、必要な時にサービスを提供し、24 時間自宅での生活を支援する仕組みです。特に独居の方や高齢世帯の皆様に、お蔭様でご好評頂いております。

私共の役割として皆様に最も身近なサービス提供者と考えており、住み慣れたご自宅で安心してお過ごし頂けるよう、専門性の向上や様々な事業所との連携を図って参りました。今年度も更に皆様にとって役に立てる存在であるよう、取り組んでいきたいと考えておりますので、スタッフ一同よろしくお願い申し上げます。

介護予防センター真誠会
責任者 山﨑 慎吾

昨年は、健康運動指導士として色々な地域の皆様と、運動を通して交流・活動をさせて頂きました。これもひとえに関係各位の皆様方、そして何よりも地域の皆様のご支援、ご厚情の賜物と深く感謝いたしております。

今年も皆様と「楽しく」「おもしろく」をモットーに運動を提供させて頂きたいと思います。また、『予防センター』、『健康クラブ』においても昨年以上に皆様に喜んで頂ける運動プログラム・イベントを展開していきますので、ご期待よろしくお願致します！

真誠会セントラルローズガーデン
管理者 山根 賢一

平成 25 年秋には真誠会セントラルレジデンス（サービス高齢者専用住宅）が完成予定です。セントラルローズガーデンも複合体として「米子中央ホスピタウン」となります。昨年以上に地域に密着し、福祉の在宅サービスをしっかり支えていきたいと思います。

真誠会医療福祉連携センター
センター長 小山 雅美

「地域包括ケアシステム」の構築を目指して一昨年の５月 地域包括ケアシステム準備を開設しました。

病気があっても、障がいがあろうとも、慣れ親しんだ地域（まち）で暮らし続けることができるよう昨年は、法人内外の専門職と「多職種連携」強化を実践した１年でした。

今年度、チームしんせい 真誠会モデルが米子市へ、鳥取県西部へ、そして鳥取県全体へ つなぐことができ、地域包括ケアシステムの構築の一役が担えるように前進したいと思います。

在宅医療連携拠点事業 コズミックリンク ホームページを一度のぞいてみてください。

訪問看護ステーションネットケア
所長 岡田 悦子

お互いの職種の壁を超え、専門職としてお互いの職種を尊重しあいながら連携をとるよう心がけています。リハビリ専門職に専門的な部分で依頼、また訪問介護職員とは協働して訪問する機会も増え、報告しあう事も日常的になりました。時には「急変です！」といった緊急の報告に対応する事もあります。予防支援から看取りまで様々ですが、連携職種をもっと拡大し、安心して地域で生活ができるよう支援していこうと考えています。

居宅介護支援事業所真誠会
管理者 松本 敦子

居宅介護支援事業所真誠会では要介護度の高いご利用者様も多く担当させて頂いています。独居の方や認知症の方、医療的な対応の必要性が高く様々な観点からのサポートが必要なご利用者様についても、可能な限り住み慣れたご自宅で過ごせるよう、私たちケアマネも全力を尽くしております。本年も学習や情報交換を密に行ない、事業所として努力するとともに、たくさんのご利用者様やご家族との「出会い」や「支援させていただくこと」に感謝の気持ちを忘れずに頑張って参りたいと思います。

真誠会では、今年の秋にバリアフリーで、介護や医療と連携して高齢者の住まいを提供 するサービス付高齢者向け住宅「真誠会セントラルレジデンス」を開設いたします。

開設に先立ち、皆様に当レジデンスの雰囲気を体感して頂くために、この度モデルルームを作りました。セントラルレジデンスの廊下にはシャンデリアを設置し、ここに住まれるだけで元気になって頂けるような住まいにしたいと思っています。

皆様の人生の第二ステージをお過ごし頂くのにふさわしい、当真誠会のレジデンスを是非ご覧ください。

真誠会セントラルレジデンス Q&A

Q.セントラルレジデンスとは？
A.お風呂付き、食事付き、生活支援サービス付きの高齢者住宅です。

Q.どんな人が入居できますか？
A.オールバリアフリー住宅で、60歳以上の方はどなたも入居できます。

Q.利用可能なサービスは？
A.入居時からどなたでもご利用いただけるサービスと、介護・医療が必要な方へのサービスを各種ご用意しております。

基本サービス……

●緊急（急変時）サービス
ナースコール24時間体制（緊急時のみ使用）で、職員がかけつけます。

●食事サービス
管理栄養士による季節感あふれる献立で皆さんと食堂で召し上がっていただけます。年間を通じて四季折々の行事に合わせたメニューを企画しています。

●娯楽サービス
映画鑑賞（大型プロジェクター大画面）、各種クラブ活動

●相談サービス
暮らしや健康面での生活相談、アドバイスを受けられます。

医療・福祉サービス……

●医療と福祉サービス
かかりつけ医にそのままかかれますし、または協力病院の真誠会セントラルクリニックの外来診療・入院が可能です。

●介護保険等のサービス
訪問介護、訪問看護、デイサービス、デイケア等、総合的なサービスで生活を支援することができます。

【お問い合わせ先】
米子中央ホスピタウン　真誠会セントラルローズガーデン
住所：米子市西福原8丁目16-66 Tel.0859-30-3330